

ベネズエラ

2022年9月5日
海外調査部・カラカス事務所

2021年のベネズエラ経済はマイナス1.5%と小幅のマイナスだった。米国による経済制裁はあるものの、一部行われるようになった原油輸出で得られた外貨が市場に回り、通貨ボリバルの大幅下落は抑えられた。経済のドル化は民間主導で一層進んだ。

■2021年は小幅なマイナス成長に

IMFの統計によると、2021年の実質GDP成長率はマイナス1.5%と、前年のマイナス30.0%と比較すると小幅なマイナス成長にとどまった。また同統計によると、2021年の1人当たりGDPは前年とほぼ変わらない1,686ドルであった。ベネズエラ国内では、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の鎮静化とともに経済活動は活発化し、足枷となっていた、7日ごとに出勤、外出禁止を繰り返す活動制限策（7×7政策）も同年11月に撤廃された。米国による経済制裁で基幹産業である石油関連は相変わらず自由な国外取引が行えないものの、原油の新たな輸出ルートを独自に見つけることにより生産の一部を輸出に回すことが徐々に可能となった。このことから、同年末の外貨準備高は109億ドルと前年同期比71%増加した。国内での石油製品の生産、また原油の輸出には中国、ロシア、イランなど友好国の支援が働いている。原油価格の高騰もベネズエラ政府にとり有利だった。OPECによるベネズエラ原油推定価格は2021年平均で1バレル当たり69.7ドルと前年から68%上昇している。

政府は輸出で得た外貨を為替介入に充当し、2021年に15億ドル以上を市場に流入させた。このことから現地通貨の下落は抑えられ2021年の対ドル為替下落率は315%と、2,000%を超えた前年から大きく軽減した。また2021年の消費者物価上昇率は686%と依然として高いものの、月間で50%を超えた月はなく、年間で3,000%弱に達した前年から大きく改善し、ハイパーインフレの状況からは脱した。政府による外貨の市場注入は2022年に入っても加速しており、年初から5月末時点で既に16億ドルに達している。

2019年に為替の自由化が行われて以来、民間主導で進んだ経済のドル化は一層進んだ。2022年初時点で、国内の個人・法人による商取引の60~70%は外貨で行われ、そのうち65%程度が外貨現金によると推定されている。物資不足に対応するため2018年7月から時限措置として導入された輸入免税措置がわずかな修正を加えられながらも延長が繰り返されていることから、ここ数年で急増したドルショップは相変わらず盛況で、欧州製高級車や高級食材の販売店など贅沢品市場も出現した。政府は行き過ぎたドル化を是正し税収増を図るため2022年3月、外貨を用いた商取引に対し大口金融取引税(IGTF)として3%課税することを定めた。

■与野党対話は中断したもののウクライナ侵攻以降、再開機運高まる

マドゥロ政権は2021年1月5日に発足した国民議会を政府支持派で固めて以降、反政府派による大規模な抗議行動などを受けることもなく、その支持基盤を盤石にしている。同年11月に行われた統一地方選でも引き続き政府支持派が多数を占める結果となった。政権にとり新型コロナ対策や困窮化した国民への各種補助金の原資確保のため、経済制裁の解除や国外で凍結された政府関連資産の回復は喫緊の課題だ。しかし、欧米主要国はマドゥロ政権を正式に承認しておらず、反政府派との対話を求めていることから、それらのカギは野党側が握っている。こうした背景から同年9月以降、二度にわたり政府代表と野党連合「統一プラットフォーム」との与野党対話がメキシコで2年ぶりに開催された。しかし、米国より資金洗浄の容疑で訴追されていた、政府に近い貿易商アレックス・サーブ氏が西アフリカで逮捕され、政府側が同氏をこの交渉メンバーに加えるなど保護を試みたが、10月に米国側に引き渡されたことに政府側が反発し、一方的に中止を宣言した。

2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻以降、米バイデン政権側から、米石油会社シェブロンと国営石油会社PDVSAとの交渉容認に関するみられる米国政府高官の派遣、欧州石油関連企業に対する欧州向け原油輸出の承認など、今後の制裁緩和を示唆するような動きも見られている。このことで与野党対話再開の機運は再び高まっている。

■中国向け輸出が後退しオランダが最大市場に

2021年の石油部門以外の輸出（通関ベース）は、2億8,900万ドルだった。異例の約11億ドルにも上る金の輸出が行われた前年と比べると82.2%の大幅減となっている。品目別にみると、最大の輸出品である鉄鋼が1億600万ドルと52.2%減少している。中国向け輸出額が前年比約10分の1となったことが大きい。また、それに次ぐ主力商品である水産品（魚、甲殻類、軟体動物）についてもエビの不振から5,600万ドルと21.9%減少した。一方、オランダや米国向けが増加したメタノールを中心とする有機化学品は3,000万ドル、ブラジル向けが好調だったアルミニウム原料のアルミナなどアルミニウム関連が2,700万ドルと、それぞれ20%近く伸びた。

国・地域別では、前年最大の輸出先だった中国向けが、同国における需要の縮小等を受けて鉄鋼の大幅減で91.8%減少した。最大の輸出先はオランダで鉄鋼が約3倍に増えたほかエビも倍増した結果、2.6倍の4,300万ドルとなった。次いでブラジル向けがアルミナや窒素肥料（尿素）の増加により4,100万ドルとなった。

2018年まで最大の輸出先だった米国向けは財務省外国資産管理局（OFAC）による経済制裁への警戒から前年大幅に落ち込んだが、肥料やカカオなどで回復が見

表1 ベネズエラの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位: 100万ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)				
	2020年		2021年		2020年		2021年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率	
鉄鋼	222	106	36.7	△ 52.2	ボイラーおよび機械類、同部品	319	299	12.8	△ 6.5
魚、甲殻類、軟体動物	71	56	19.3	△ 21.9	穀物	392	263	11.3	△ 32.9
有機化学品	25	30	10.2	18.2	プラスチックおよび同製品	126	146	6.3	16.4
アルミニウム	22	27	9.2	19.6	電気機器、音響機器、テレビ等	220	137	5.9	△ 37.5
肥料	20	15	5.2	△ 23.2	動植物性油脂	176	105	4.5	△ 40.0
電気機器	9	11	3.7	26.8	食品工業残留物・くず、調製飼料	95	87	3.7	△ 8.3
銅およびその製品	6	7	2.4	17.1	自動車・同部分品	105	78	3.4	△ 25.8
生きた動物	0	5	1.7	23,052.3	穀粉、加工穀物	194	74	3.2	△ 61.8
ココアおよびその調製品	3	3	1.2	20.5	有機化学品	62	73	3.1	18.1
鉛およびその製品	2	3	0.9	24.0	調整食料品・飲料、穀物、でん粉等	202	62	2.7	△ 69.1
合計 (その他含む)	1,625	289	100.0	△ 82.2	合計 (その他含む)	3,378	2,326	100.0	△ 31.1

(注) 輸出は非石油部門のみ。

(出所) SENIAT (Global Trade Atlas)

られ、3,800万ドルと前年比91.3%増加した。

■イランの協力により石油生産がやや回復

米国による経済制裁でベネズエラ産原油の自由な輸出はできない状態が続いていることから、かつての主要市場である欧米諸国向けの2021年の輸出は皆無だった。とはいえ、OPECの推定によると2021年のベネズエラの原油生産量は日量68万3,000バレルと前年の同56万9,000バレルから若干回復している。

マドゥロ大統領など政府関係者からは

これを100万バレル以上に引き上げる目標もたびたび発表されている。ベネズエラで産出される原油は重質・超重質油が中心であり、石油製品や輸出グレード原油の生産にはコンデンセートやナフサなどの希釈剤が必要となる。これらの米国からの調達も停止したままだが、イランとの協定によりベネズエラ産原油とのスワップで不安定ながらも定期的に入手が可能となっている。一方、原油の外国市場での販売については、制裁回避のための間接取引も多く、実態を掴むのは非常に困難だ。多くの外国企業が関与するほか、沖合での積み替えや追跡困難なタンカー輸送なども行われるようであり、混合なども経て最終的には中国市場に流れているとみられる。しかしこうした事情からベネズエラ原油の販売は25%程度の値引きが強いられるうえ、さらにはウクライナ紛争によるロシアへの経済制裁から、同国産の原油との競合も起こりうるなど安定的な生産回復、国際市場への復帰といった状況からは遠い。そうした中、欧州におけるロシア産原油への依存軽減のため米バイデン政権は2022年6月、国内で石油・ガス生産事業を保留しているイタリアのエニ、スペインのレプソルに対し、欧州向けのベネズエラ原油供給を認めるなど制裁緩和ととれるような動きもあり、今後の国際情勢で制裁内容が変化する可能性が出ている。

■米国が再び最大の輸入先に

2021年の輸入（通関ベース）は、23億2,600万ドルと前年比31.1%減少した。穀物、砂糖、医薬品といった生活物資の輸入が全般に急増した前年からの反動が大きい。また最大の輸入品目であるボイラーなど機械類が2億9,900万ドルと6.5%減少したほか、穀物、電気機器などについても軒並み減少している。国・地域別では米国が2.9%増の4億6,200万ドルと再び首位となった一方、中国は大豆油かす、医療機器、医薬品などが大幅に減少し3億4,900万ドルと48.0%減となった。

表2 ベネズエラの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位：100万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2020年		2021年			2020年		2021年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
オランダ	16	43	14.8	162.5	米国	449	462	19.9	2.9
ブラジル	29	41	14.0	39.2	中国	671	349	15.0	△ 48.0
米国	20	38	13.2	91.3	ブラジル	571	323	13.9	△ 43.5
中国	292	24	8.3	△ 91.8	ドイツ	132	212	9.1	60.1
グアテマラ	10	22	7.5	108.8	コロンビア	212	160	6.9	△ 24.9
フランス	25	16	5.5	△ 36.7	メキシコ	316	101	4.4	△ 67.9
コロンビア	18	16	5.4	△ 10.7	アルゼンチン	81	79	3.4	△ 2.3
スペイン	19	15	5.1	△ 22.9	トルコ	225	72	3.1	△ 68.2
イタリア	7	13	4.4	92.4	パナマ	116	71	3.1	△ 39.0
台湾	3	8	2.6	131.6	カナダ	19	69	3.0	266.3
エクアドル	4	7	2.4	56.5	イタリア	36	52	2.2	45.2
ドミニカ共和国	1	6	2.2	731.4	スペイン	41	44	1.9	8.2
ポルトガル	16	5	1.8	△ 67.8	ペルー	24	40	1.7	66.4
トルコ	1	5	1.8	288.9	インド	60	37	1.6	△ 38.0
エジプト	0	5	1.7		チリ	28	31	1.3	11.4
キューバ	7	4	1.5	△ 35.8	フランス	10	21	0.9	108.1
インド	5	4	1.3	△ 28.4	エクアドル	15	18	0.8	16.8
タイ	1	4	1.3	207.9	アラブ首長国連邦	15	18	0.8	14.3
メキシコ	12	3	1.1	△ 73.1	日本	16	13	0.6	△ 18.2
韓国	5	2	0.6	△ 68.6	韓国	8	12	0.5	52.1
合計 (その他含む)	1,625	289	100.0	△ 82.2	合計 (その他含む)	3,378	2,326	100.0	△ 31.1

[注] 輸出は非石油部門のみ。

[出所] SENIAT (Global Trade Atlas)

■日本の輸出は横ばい、輸入ではメタノールが約50%増加

日本の貿易統計（通関ベース）によると、2021年のベネズエラ向け輸出は1,806万ドルと前年から1.3%増加した。品目別にみると最大の乗用車が731万ドルと10.1%減少したが、貨物自動車が2.9倍、二輪車が2.4倍と急増している。

ベネズエラからの輸入は5,325万ドルと前年比42.5%の大幅増加となった。最大の輸入品となったメタノールが4,220万ドルと51.8%増加したことが大きく貢献している。メタノールの対日輸入実績は過去3年で4倍以上増加している。次いで多いカカオ豆も804万ドルと17.0%の増加となった。なお原油の輸入実績は2018年以降みられていない。

表3 ベネズエラの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2020年		2021年			2020年		2021年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
乗用車	8,132	7,313	40.5	△ 10.1	メタノール	27,800	42,195	79.2	51.8
ピストン式火花点火エンジン	2,757	2,999	16.6	8.8	カカオ豆	6,871	8,036	15.1	17.0
貨物自動車	538	1,567	8.7	191.1	アルミニウムインゴット	1,452	1,073	2.0	△ 26.1
二輪車	619	1,498	8.3	142.2	肉筆書画	0	652	1.2	-
自動車用部分品及び付属品	1,176	722	4.0	△ 38.6	銅のくず	469	503	0.9	7.2
ゴム製タイヤ(新品)	577	623	3.4	7.9	ラム酒その他類似品	207	398	0.7	91.9
原動機付きシャシ	11	322	1.8	2,759.0	アルミニウムくず	0	167	0.3	-
バルブ・コック類	123	250	1.4	102.3	冷凍魚	270	111	0.2	△ 58.9
ガスケットその他ジョイント	69	212	1.2	205.6	医療用機器	0	42	0.1	-
有機硫黄化合物	43	206	1.1	379.2	特殊取扱品	0	34	0.1	-
合計(その他含む)	17,833	18,059	100.0	1.3	合計(その他含む)	37,383	53,254	100.0	42.5

〔出所〕財務省「貿易統計」(通関ベース)

主要経済指標

	2019年	2020年	2021年
①人口：2,870万人(2021年)			
②面積：91万6,445km ²			
③1人当たりGDP：1,686米ドル(2021年)			
④実質GDP成長率(%)	△ 35.0	△ 30.0	△ 1.5
⑤消費者物価上昇率(%)	9585.5	2,959.8	686.4
⑥失業率(%)	n.a.	n.a.	n.a.
⑦貿易収支(100万米ドル)	n.a.	n.a.	n.a.
⑧経常収支(100万米ドル)	4,342	△ 4,406	△ 634
⑨外貨準備高(100万米ドル)	6,630	6,364	10,914
⑩対外債務残高(100万米ドル)	n.a.	n.a.	n.a.
⑪為替レート(1米ドルにつき、ポリバル、期中平均)	13,298	335,029	3.24

〔注〕①③④⑧と⑤の2020年および2021年は推計値、⑨：マクロ安定化基金(FME)を含まず、⑪：2021年10月、6桁を切り下げるデノミを実施。
〔出所〕①：国連、②：国家統計院(INE)、③④⑤⑧：IMF、⑨⑪：ベネズエラ中央銀行

(お問い合わせ先)

海外調査部 米州課

ORB-latin@jetro.go.jp